

5歲兒



5 歳児 友達と協同的に取り組む中での自己発揮

発達の特徴

基本的な生活習慣が身に付き、生活に必要な行動のほとんどを一人でできるようになってきます。また、大人に指示されなくても生活の流れを見通して行動できるようになってきます。周りの人の役に立つことを嬉しく感じ、仲間の一人としての自覚も生まれてきます。

運動機能はますます高まり、喜んで運動遊びをしたり、仲間と共に活発に遊んだりするようになってきます。縄跳びやボール遊びなど、体全体を協応させた動きができるようになるとともに、鬼ごっこなどの集団遊びでも体を活発に動かしたり、少し難しいことにも自分から挑戦したりするようになります。

言葉によって相手と共通のイメージをもって遊び、目的に向かって集団で行動することが増えてきます。仲間の一人としての自覚も生まれてきて、自分なりに考えて判断したり、けんかをして自分たちで解決しようとするなど、互いに相手を許したり、異なる思いや考えを認めたりといった社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく時期です。少し先を見通しながら、友達と共通の目的をもって活動するようになるため、仲間の存在がますます重要になります。目的に向かって楽しく活動するために、それぞれが自分の役割を守ることが大切であることも分かってきますが、個人差も大きくまだまだ支援も必要です。

大切にしたい保育の課題

- 友達と共通の目的やイメージがもちやすい環境や材料を考えたり、子どもたちが興味をもっている社会情報を伝えたりして、自分たちの課題をもち、生活を主体的に進めていこうとする意欲や態度を育てましょう。
- 様々な遊びや生活を通して、考えたり、試したりできるような場をつくり、自分なりに考え、納得して取り組むことによって、成就感や満足感を十分味わえるようにし、知的好奇心を高めることが大切です。そのため、ものの特性を生かした環境づくりや、気づきや発見がより深まるような関わりが求められます。
- 友達関係の深まりとともに、ぶつかることや葛藤なども多くなります。子ども同士の関わりに十分付き合い、一人一人のよさにも気付けるようにしながら、解決そのものを急ぐのではなく、解決に向けた取組の中で、子どもたち自身の力で遊びを進めていくことが実感できるような保育者の支援が必要です。友達と一緒に遊びや生活を進めていく中で、自分に自信をもったり他者を認めたりする気持ちや態度を育てることが、協同的な学びにつながります。

「わくわく・のびのび・いきいき」育つために —発達をふまえた関わり方—

子どもに任せよう

5歳児になると、基本的な生活習慣もほぼ身に付き、任されたことにも意欲的に取り組みます。仲間の一員としての自覚と誇りは子どもをまた一回り大きく育てます。園での生活やグループ活動も、目的に向かって協力する気持ちが芽生えます。頼りにして任せ、主体性を大事にしながら、自分たちの力でやり遂げた満足感が味わえるよう、さり気なく支えましょう。



子ども同士の育ち合いを見守ろう



気の合う友達と試したり工夫したりして主体的に遊ぶ中で、発見したことや考えたことを言葉で伝え合おうとします。一人一人の子どもの話す力や思考力は、友達同士で話し合い、目的を共有して遊びや生活を進める力と関連し合って育っていきます。話す楽しさ、話し合う経験を遊びや生活の中で十分重ねていけるように、大人は見守りながら関わっていきましょう。

できるようになりたいという気持ちを支えよう

体力がつき体の諸機能が著しく発達します。縄跳び、ボール、跳び箱など複数の動きを組み合わせた複雑な動きを滑らかに行うことができるようになってきます。また、友達と一緒に運動遊びをする楽しさが様々な動きの獲得につながります。

子ども自身の、できるようになりたいという気持ちを大切に、さらに目的がもてるよう関わっていきましょう。また、椅子に座って活動を行ったり、道路（歩道）を歩いたりするなど、就学を意識した活動も取り入れていきたいものです。



期／月		5歳児 I期（4月～5月）
期の特徴		年長になった喜びや自覚をもつ時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・年長になったことを喜び、思いを積極的に話したり、したい遊びに進んで取り組んだり張り切って生活する。中には新しい環境への不安や緊張も見られる。 ・昨年度の5歳児がしていたことを思い出したり、再現したりする。また、年長になったという気持ちから、年下の子どものことを気かけ優しく接しようとする。 ・新たな活動に意欲的に取り組もうとする子どももいる。一方で仲のよい友達と一緒にいることで安心したり、慣れた遊びや得意な遊びに取り組むことで、気持ちを安定させたりする姿もある。 ・思いが食い違っても、まだまだ相手の思いに気付きにくいことからけんかになることがある。また、保育者の援助がないと解決することは難しい場面もあり、諦めてしまう姿もある。 ・春の草花や砂など、身近な素材を使って遊ぶことを喜ぶ。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・年長になったことを喜び、新しい生活を楽しむ。 ・気の合う友達や先生と、興味のある遊びに進んで取り組み意欲的に過ごす。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・園での生活の流れが分かり、友達と確かめ合ったり話したりしながら、簡単な見通しをもって行動するとともに、身の回りのことを自分から進んでする。【自】 ・新しい環境や保育室に親しみをもつ。【健】
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と誘い合って戸外での遊びに喜んで取り組み、体を伸び伸びと動かして遊ぶ。【健】 ・健康診断を通して、自分の体や健康に関心をもつ。【健】 ・簡単な目的を共有して、気の合う友達と一緒にしたい遊びや簡単な集団遊びに取り組んだり、友達の様子に興味をもったりする。【協】
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢児とのつながりを感じ、触れ合うことを楽しんだり、役に立ったり認められたりすることに喜びを感じる。【道】【社】 ・栽培物の生長や収穫を楽しみに世話をする。【自然】
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・春の草花や生き物に親しみをもち、触れながら遊びや生活に取り入れていく。【思】【自然】 ・遊びに必要な用具や材料を探したり、自分なりに試したりして遊ぶ。【思】【数】 ・身近な素材や遊具を使い、自分の思いや考えを出しながら遊ぶ。【思】
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや伝えたいことを、身近な友達や先生に話す。【言】 ・先生や友達の話に興味をもって最後まで聞こうとする。【道】 ・扱った経験のある素材や遊具、用具を使って、楽しみながら表現して遊ぶ。【表】

＜保育のポイント＞

☆新しい生活環境の中で、進級時の不安感、張り切る気持ちや5歳児なりの自尊心など、緊張や高ぶる気持ちを保育者がしっかり受け止めながら、子ども自身が自分の気持ちと向き合いコントロールしていく過程も大切に。また、安心して自己表出できるように、保育者との信頼関係を子ども一人一人と丁寧に築いていく。

- 友達との思いの食い違いから起こるいざこざなども、自分とは違う相手の思いにふれるきっかけと捉え、気付きを促す投げ掛けをしていく。
- 進級した喜びを感じ、自分の成長が実感できるよう、「年長になったから～ができる（使える）」といった遊びに思う存分取り組めるようにする。
- 危険な遊び方や行為に対する意識をもてるよう、みんなが気持ちよく過ごせるためにはどうすればよいか、一緒に考える機会をもちながら、遊具や用具の安全性に配慮した環境を整える。

＜家庭との連携＞

- ・1年間のクラスの方針や活動内容、予想される子どもの姿などを具体的に知らせ、親子が園生活に見通しや期待をもって過ごせるようにする。
- ・進級により環境が変化することに対する保護者の不安な思いを受け止め、園での子どもの様子を積極的に伝えながら関係づくりに努める。

色とりどりの花が咲き、その花を使って色水づくりをする子どもたち。4歳児のときは手で花をすりつぶしていましたが、「前の〇〇組（5歳児）は道具を使っていた！」と自分たちも道具を使って一生懸命色水をつくっています。色水をジュースに見立てて、お店屋さんも始めました。

【健康】

【園での生活の流れが分かり、友達と確かめ合ったり話したりしながら、簡単な見通しをもって行動するとともに身の回りのことを自分から進んでする】

「年長になったから、使い方が少し難しい道具も使えるようになった」と、大きくなった自分を感じています。

【人間関係】

【簡単な目的を共有して、気の合う友達と一緒にしたい遊びや簡単な集団遊びに取り組んだり、友達の様子に興味をもったりする】

友達のつくった色水を興味津々で眺めます。遊びへの関心がそのまま、友達への関心へと向いていきます。遊びと関心が絡み合いつつ、深まっています。

【環境】

【遊びに必要な用具や材料を探したり、自分なりに試したりして遊ぶ】

遊びたい場所、使いたい道具を自分で見付け、遊びに取り組んでいます。自分の力で環境に関わっていることが主体的な遊びや生活を進める充実感につながります。



【言葉】

【先生や友達の話に興味をもって最後まで聞こうとする】

【自分の思いや伝えたいことを身近な友達や先生に話す】

ジュース屋さんを見に来た4歳児に「どれがいいですか」と優しく声を掛けました。こうした場面で、相手の思いを聞いたり、相手に合わせて話したりする力が育ちます。

【表現】

【扱った素材や遊具、用具を使って、楽しみながら表現して遊ぶ】

「みかんジュースです」「こっちはぶどうジュース、おいしいよ」など、日常の経験や遊びの中で感じたことや感動が言葉となってたくさん出てきます。以前体験したことが、新しい体験をより豊かに広げます。

【このコラムにおける保育のポイント】

- 新しい生活が始まり、緊張や意気込む姿も見られますが、経験のある活動や慣れた遊び、気の合う友達との関わりなどを頼りに、安心して生活していけるよう配慮しながら環境を整えることが大切です。春の草花など身近なものを遊びに取り入れ、友達と同じ場でやりたいことが十分に楽しめるよう環境を整えましょう。
- したい遊びを楽しむ中で、様々なことを保育者や友達に向かって表現する姿も増えていきます。素直に思いを伝え、受け止めてもらうことの喜びを積み重ねていけるように、一人一人とのつながりを大切にしましょう。

期／月		5歳児 Ⅱ期（6月～8月）
期の特徴		試したり繰り返したりして充実感を感じる時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・新しい遊びやごっこ遊びを楽しみ、充実して遊ぶ姿もあるが、自分で思いを実現させたり見通しをもったりして遊びを進めることは難しい。 ・友達関係に少しずつ変化が見られ、いろいろな友達とも関わりを広げて遊ぼうとする。また、夏の生活や遊びを通して、年下の子どものことを気にかけて優しく接しようとする姿も見られるようになる。 ・砂遊びや泥遊びなど開放的でダイナミックな遊びを喜び、その中で自分の思いを伸び伸びと表現する姿が見られる。 ・思いのぶつかり合いによるいざこざも起こるが、保育者に助けを求めながら解決のために向かい合おうとする。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材に触れ、試したり工夫したりして遊ぶ。 ・自分の思いを出しながら友達と一緒に遊びを楽しむ。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・気候に応じて休息、水分補給、汗の始末など、健康に過ごすための生活習慣に気付き、進んで身の回りのことをしようとする。【健】 ・体の部位の名称や働きを知り、関心をもったり、自分と友達の体を大切にしようとしたりする。【健】
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの遊びや生活の場であるという意識をもち、自分たちで整えたり大切にしたりしようとする。【自 道】 ・体や道具を使って、全身で水や砂に親しんで遊び、思う存分開放感を味わったり、目的をもって繰り返し挑戦したりする。【健 思】
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたい遊びに進んで取り組む中で、友達のしていることに関心をもち、関わろうとする。【自 協】 ・小中学校や地域の人、異年齢児との交流を通して、いろいろな人に親しみの気持ちをもつ。【道 社】 ・砂、泥、水、粘土など様々な特性や可塑性のある素材に十分に触れ、感触を楽しみながら繰り返し試したり工夫したり確かめたりして遊ぶ。【思 自然 数】 ・小動物やものとの触れ合いを通して、命の大切さやものへの愛着をもち大切に扱う。【自然】
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・夏野菜などの栽培物の生長を楽しみにし、形や数や量に関心をもったり、育てる喜びや食への関心を高めたりする。【自然 数】 ・遊びの中でイメージしたことや気付いたこと、考えたことなどを言葉で表現し、相手に伝えようとする。【思 言】
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と簡単な目的をもって遊ぶ中で、自分の思いを言葉で伝えようとしたり、相手の話にも耳を傾けたりする。【言 健 協】 ・様々な素材と触れ合う中で、思いや感動したことを自分なりに表現する。【表】 ・自分の思いやイメージをかいたりつくったりして表現することを楽しむ。【表】 ・音楽に親しみ、友達と一緒にリズム楽器を使ったり、体を動かしたりして遊ぶ心地よさを味わう。【表】

<保育のポイント>

- ☆暑い時期を心地よく過ごすために必要な生活の仕方を知らせ、体の健康に関心をもち、自分から進んで身の回りのことをできるようにする。
- ☆子どもなりの発見や達成感、手応えを友達や保育者と共有できるように関わり、一人一人の自信や意欲の高まりにつなげていく。
- 子どもの興味・関心に働き掛け、活動がつながっていくよう、視覚的に分かりやすい情報環境を整えていく。
- 開放的な遊びの中で、一人一人が思いを表出したり、友達との関わりを十分楽しんだりできるように、保育者も仲間として子どもたちの遊びに関わっていく。
- 年長児としての自覚をもって、生活や安全のために必要な事柄やルールを自分から守って行動できるように言葉掛ける。

<家庭との連携>

- ・汗を拭いたり衣服を着替えるなど、園で子どもと健康のために取り組んでいることを保護者に伝え、家庭と連携して梅雨期から盛夏の生活習慣が身に付くようにする。
- ・園での栽培活動が家庭での食育につながるように、栽培から収穫、収穫物を用いてのクッキング活動へと連続性をもたせる。また、クラスでの共通の体験から、食育に取り組むことの大切さを伝える。
- ・伝統行事を保育に取り入れ、そのよさや意味、季節感を親子で味わえるようにする。またそのような機会を捉えて世代間の交流も体験できるような活動を取り入れる。

こうしたらこうなるんじゃないかな・・・？大きなと樋を山に立てた A 君は、水を樋の上まで溜め、一気に引き抜き、勢いよく水が溢れ出すことを楽しんでいます。そのうちに興味を引かれた友達が寄ってきて、“せーの！”の掛け声とともにみんなで樋を引き抜きました。

【健康】

【全身で水や砂に親しんで遊び、思う存分開放感を味わったり、目的をもって繰り返し挑戦したりする】

柔らかい砂の上。裸足で踏み張りながら全身のバランスを取っています。水が加わり開放感も思う存分味わっています。

【人間関係】

【やりたい遊びに取り組む中で、友達の関わっていることに関心をもち、関わろうとする】

興味を感じた遊びに寄っていき“楽しい”という気持ちでつながっていきます。

【環境】

【砂・泥・水・粘土など様々な特性や可塑性のある素材に十分に触れ、感触を楽しみながら繰り返し試したり工夫したり確かめたりして遊ぶ】

砂や水、泥など、身近な素材に触れて、感触を楽しみながらダイナミックに遊びを展開します。このような体験が、知的好奇心・探求心につながります。



【言葉】

【友達と簡単な目的をもって遊びに取り組む中で自分の思いを言葉で伝えようとして、相手の話にも耳を傾けたりする】

遊びながら“ドッカーン”などの、イメージを表現する言葉が出てきます。気に入った言葉で友達とつながっていく楽しさも同時に感じています。

【表現】

【いろいろな素材と触れ合う中で、思いや感動したことを自分なりに表現する】

変化する砂や水からイメージしたものを見立てて名付けたり、自分なりの思いを遊びの中で伸び伸びと表出していきます。

【このコラムにおける保育のポイント】

- 友達とのつながりが広がるこの時期には、遊びの面白さを子ども同士が共有することが大切です。「楽しそう」「一緒にしたい」とみんなが思わず遊びに入りたくなる魅力的な環境をつくりたいものです。この時期ならではの、砂や水に触れて開放感が味わえる遊びを十分に取り入れましょう。
- 子どもたちが互いに刺激を受けながら、遊びがより豊かに楽しくなっていくように、保育者も仲間として加わりながら、子ども同士の思いやアイデアをつないでいく援助をしていきましょう。

期／月		5歳児 Ⅲ期（9月～10月）
期の特徴		みんなで一緒にすることの楽しさや大切さを感じ、自信をもって取り組む時期
子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 夏に経験した遊びや出来事を友達に話したり、互いの様子を知り合ったりすることで、より友達に親しみを感じる姿が見られる。 運動遊びや初めての遊びにも、自分なりの目的をもって挑戦したり、友達から刺激を受けてやってみたりしようとする。 話し合いや相談の場で意見を伝え合ったり、互いの思いを認め合ったりしながら、解決に向けて考えようとする。 保育者や友達からの期待、年少児からの憧れを受けて、自信をもって取り組むようになる。
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの目的をもっていろいろな遊びに挑戦し、達成感や充実感を味わう。 友達と互いに思いや考えを出し合い、力を合わせて遊びを進めようとする。
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> 生活に見通しをもち、自分たちで遊びの場を整えたり、健康、安全に必要なことを進んでしたりする。【健】 いろいろな運動遊びに興味をもち、全身を使って遊ぶことを楽しむ。【健】
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの目的をもって繰り返し挑戦し、やり遂げたことに自信をもつ。【自】【協】 経験したことを、年少児に教えたり広げたりしていくことで、年長としての自覚をもつ。【自】【社】 友達と一緒に助け合ったりコツを伝え合ったりして、目標に向けて繰り返し取り組む。【協】
	環境	<ul style="list-style-type: none"> 友達と力を合わせたり、考えを出し合ったりする中で、自分の力を発揮し認められる満足感やみんなでやり遂げる喜びを感じる。【自】【協】 数えたり比べたりすることや、文字の表示に興味をもつ。【思】【数】
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 秋の自然に親しみ、自然物に興味をもって変化や不思議さや面白さに気付き、見たり調べたりしようとする。また、命のつながりを感じ、生活に取り入れたり、大切に扱ったりしようとする。【思】【自然】
	表現	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに必要なものを、身近な用具や材料を使って工夫してつくる。【思】【表】 自分の発見したことや感動したことを、相手に分かるように話すとともに、相手の話を聞こうとする。【道】【言】 絵本や物語を通して、豊かな言葉や表現にふれる。【言】【表】 友達と一緒に、感じたりイメージしたりしたことを、音や曲、リズムに合わせて表現する。【表】

<保育のポイント>

- ☆様々な行事がある中で、一人一人の楽しみな気持ちや不安な気持ちを保育者が十分に受け止め、安心感をもって、生き生きと活動に取り組めるように関わっていく。
- 友達と自分の思いが違ったときや、みんなで一つのことを決めようとするときに、子ども自身が心を動かす経験を大切にし、気持ちをコントロールする過程を見守りながら支えていく。
 - 年長クラスの一員として、目的に向かってやり遂げようとする気持ちを支えていくとともに、できた喜びに共感し自信につながるようにしていく。また、自分の役割に責任をもって取り組む経験ができるようにする。
 - 遊びの中で文字を使おうとしたり、数を数えたりする姿を捉えて、楽しみながら文字や数への興味関心を広げていけるように関わる。
 - 地域のひととの交流や公共の場での活動を通して、社会のマナーや交通ルールなどその場にふさわしい行動を身に付けられるようにする。

<家庭との連携>

- ・暑い日が続いたり活動量が多くなったりするため十分体を休めるなど、健康管理に留意した生活を過ごせるように伝えていく。
- ・運動会などの取組の過程を伝え、子どもなりの頑張りや気持ちの揺れなどを保護者と共有し、認め支えていくよう働き掛ける。

5歳児 Ⅲ期

よっしゃー！ ぼくたち わたしたち カッコいい

夏の遊びを経験し、遊びへの手応えを感じてきている子どもたち。運動会の取組をきっかけに、友達の様子に刺激を受け、少し難しいことも自分でやってみようとする姿が見られるようになってきました。リズム遊びでは、自分たちで動きを考えたり、三つ編みのひもをつくり、動きの中に取り入れたりしながら楽しんでいます。縄をピンと張ったり、緩めたり、友達と思いを伝え合いながら力を加減することで、よりうまくつくれることに気付いていきます。また、自分たちの思いで遊びを進めるだけでなく、周りからどう見られるかを意識するようになってきます。

【健康】

【いろいろな運動遊びに興味をもち、全身を使って遊ぶことを楽しむ】

いろいろな遊びを通して、バランス感覚を養います。友達との力加減を工夫したり、少し難しそうなのに挑戦したりして、体の使い方を身に付けていきます。

【人間関係】

【友達と一緒に助け合ったりコツを伝え合ったりして、目標に向けて繰り返し取り組む】

互いの姿に刺激を受け「〇〇ちゃんのようにになりたい」と憧れの気持ちをもったり、「〇〇ちゃんってすごいな」と友達の姿を認めたりしながら、仲間関係を築いていきます。

【環境】

【遊びに必要なものを、身近な用具や材料を使って工夫してつくる】

遊びや活動に必要なものを、自分たちで作りあげます。「右、左…」(三つ編み)と順番に繰り返し、苦心してつくったものを活用することで達成感や充実感を味わいます。



【言葉】

【自分の発見したことや感動したことを、相手に分かるように話すとともに、相手の話を聞こうとする】

自分の意見を友達に伝えようとしたり、友達の意見を聞いて活動に取り入れようとしたりします。「こんなのどう?」「こっちの方がカッコいい」と意見を出し合います。目的を達成するためには、お互いの意見をすり合わせる事が大切であることを感じています。この積み重ねが、「自分たちで力を合わせて取り組んだ」という実感につながります。

【表現】

【友達と一緒に、感じたりイメージしたりしたことを、音や曲、リズムに合わせて表現する】

曲に合わせて、体を動かしたり、自分たちで考えた動きで遊んだりします。「こんなふうにしたらどう?」「〇〇ちゃんのやり方がカッコいい」というような表現方法を楽しみます。

【このコラムにおける保育のポイント】

- 運動会のような大きな行事も、子どもたちが主体的に楽しんで取り組んだり、遊びの過程での手応えや、やり遂げた充実感などを体験したりすることが、一人一人の自信につながっていきます。
- 共通の目的に向けて、互いに思いや考えを活発に出し合ったり、必要なものを自分たちで考えついたりするなど、友達と力を合わせて進める活動を意識的に取り入れましょう。また、仲間やクラス集団の中で一人一人のよさや頑張る姿が認め合えるように配慮しましょう。

期／月		5歳児 IV期（11月～12月）
期の特徴	友達関係が深まり、力を合わせて遊ぶ時期	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からアイデアを出し、工夫しながらいろいろなものを遊びに取り入れて進めていこうとする。 ・自分なりの目的をもって、さらに楽しくしようと継続して遊ぶようになる。 ・遊びの中で必要に応じて、友達と相談しながら役割を分担する姿も見られる。 ・友達とのいざこざの中で、すぐに保育者に頼らずに自分たちで問題を解決しようとする。 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中でイメージしたことや考えたことを、いろいろな方法で工夫して表現する。 ・友達同士で思いや考えを出し合い、自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう。 	
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活や病気の予防に関心を持ち、手洗いうがいを丁寧にするなど、意識して行動する。健 ・複数の動きのある遊びを通して、思い切り体を動かしたり手先を使ったりする。健
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びのルールを考えたり、必要に応じて自分たちでつくり出したりする楽しさを味わいながら、友達と一緒に活動する。協 道 ・自分の持ち物や共同のものを大切にし、整理や片付けを進んでする。社 健 ・友達と共通の目的を持ち、思いを出し合いながら遊びを進める楽しさや満足感を味わう。自 協
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折り合いをつけながら一緒に行動しようとする。道 ・秋から冬の季節の変化や自然の不思議さや面白さに関心を持ち、観察したり調べたりする。思 自然 ・生活や遊びの中で、数えたり、比べたり、形を組み合わせたりすることを通して、数、量、形、長さ、重さ、性質や仕組みなどに関心をもつ。思 数
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外の活動を通して、様々な人や社会事情に関心をもったり、社会でのマナーを知ったりする。社 道 ・場にふさわしい言葉の使い方や表現の仕方が分かり、進んで使おうとする。社 言 表 ・感じたことや経験したことからイメージを膨らませ、工夫して表現する。表
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な材料や自然物を生かし、目的をもって最後まで丁寧にいかいたりつくったりする。自然 表 ・友達と一緒に歌ったり合奏したりする中で、友達の声や音を聞いたり気持ちを合わせたりする心地よさを感じる。表 協

<保育のポイント>

- 遊びに必要な材料や用具を、子どもたちが自主的に探したり、使ったりできる環境を整えることで、子ども自身が見通しをもって遊びを進め、思いを実現する経験を重ねられるようにする。
 - 遊びや生活の中から数量や文字に対する興味・関心・感覚が養われるように意識して、日々の保育環境を整えるようにする。
- ☆友達との関わりを通して自分で気持ちを調整し折り合いをつけていけるよう、解決を急がずに見守りながら関わっていく。
- 子ども同士で仲間を意識できるような言葉掛けや、思いを出し合ったり、互いの思いに気付いたりできるような関わりを大切にす。

<家庭との連携>

- ・感染症の流行期でもあり、体調管理には十分気を付け、早めの休養をとるように働き掛ける。また、園で取り組んでいる指導内容も伝え、家庭と連携して病気の予防に努める。
- ・就学を控えて我が子の育ちが気になる時期であるが、その子のよさを認めながら子どもが期待をもって生活していくことの大切さを家庭にも伝えていく。（IV期からV期にかけて）
- ・就学に向けて生活習慣などを園と家庭で見直していく機会をつくり、家庭でも意識を高められるように働き掛ける。
- ・友達との活動を通して協同性が育まれ、小学校での生活や学習の基盤になることを、具体的な姿を通して伝えていくなど、就学前の幼児教育の意義を知らせる。

5歳児 IV期

ねえねえ、 こんなふうにしてみようよ

数人の友達同士、牛乳パックやロール芯を組み合わせて、どんぐり転がしのコースをつくり始めました。「一回どんぐり転がしてみよう」「いくよ～」とつくったコースにどんぐり転がしを試してみますが、うまくいきません。A児が「あっ、いいこと考えた!」と牛乳パックを重ねて、コースを支える柱をつくり出しました。周りの友達とも「なんだか上に上がってない?」「Bちゃんここを持って」「いいよ」と声を掛け合います。そして、「だんだん丈夫になってきた、いくよ!」と、みんなでどんぐり転がしを繰り返し楽しみました。

【健康】

【複数の動きのある遊びを通して、思い切り体を動かしたり手先を使ったりする】

こんなふうにしたいたいという目的や遊びの見通しがあるからこそ、思い描く形にはさみで切ったり、必要な場所に必要な長さのガムテープをくっつけたりして、イメージしたものを実現しようとしています。どんぐりを転がす強さやスピード、微妙な加減を手先で調整しています。

【人間関係】

【友達と共通の目的をもち、思いを出し合いながら、遊びを進める楽しさや満足感を味わう】

友達と共通の目的でつながり、遊びが形になっていくことで、自分たちで遊びを進める楽しさを感じています。また、考えたり、工夫したり、試したりする中で、思いを伝え合います。遊びの中での喜びや葛藤を友達と共有することが、「ぼくたちのつくった遊び、面白いな」という達成感と満足感につながります。

【環境】

【生活や遊びの中で、数えたり、比べたり、形を組み合わせたりすることを通して、数、量、形、長さ、重さ、性質や仕組みなどに関心をもつ】

「3つ転がそう」と、どんぐりを数えてカップに入れたり、スタートの場所の目印をかいいたり、自分たちが経験の中で知った文字や数を遊びの中で取り入れます。また、遊びがさらに楽しくなるようにしたり、他の友達にも分かるようにしたりと工夫します。

【言葉】

【場にふさわしい言葉の使い方や表現の仕方が分かり、進んで使おうとする】

友達に思いを伝える中で、相手に分かるような言い方をしたり、分かってもらえるよう伝え方を工夫したりして思いを表現しようとしています。相手がどうしたら思いが分かってくれるのか考え、根気強く伝えようとしています。

【表現】

【感じたことや経験したことからイメージを膨らませ、工夫して表現する】

いろいろな材料を使い、活動や遊びに必要なものを、目的に合わせてつくるようになってきます。どんぐりがどこで引っ掛かるのか確かめたり、どうすればうまく転がるのか、角度を変えたり何度もやり直したりして、目的をもって最後まで取り組もうとしています。

【このコラムにおける保育のポイント】

- ・秋の深まりとともに、子どもたちの遊びも目的をもってじっくり取り組める時期です。自分たちが考えたことが実現できるような方法を一緒に考えたり、子どもたちが自分で選んでつくっていけるように、魅力的な材料を用意しておいたりすることも大切です。
- ・自分たちで遊びを進めていく楽しさを感じていきます。一人一人が十分に考えやイメージを出し合いながら遊びを進めていけるように、共通の見通しがもちやすい遊びを保育者も仲間の一人となって一緒に考えましょう。また、遊びの中で、友達がいたからできたことや楽しかったこと、力を合わせられたことなど、その瞬間や機会を捉え、みんなで一緒に喜んだり、子ども同士をつなげたりする関わりが大切です。



期／月		5歳児 V期（1月～3月）
期の特徴	自分に自信をもち、友達と共に活動する充実感や小学校への期待を膨らませる時期	
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 友達と誘い合って遊びを進める中で自分の役割を意識し、意欲的に取り組めるようになる。 友達に思いが十分伝えられなかったり、葛藤したりしながらも、楽しく過ごすために、自分の思いや行動をコントロールしようとする。 卒園（修了）や入学を前に、小学校への期待や新しい生活への緊張を感じる。 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 一年生になることに期待と喜びをもち、見通しをもって園生活を進める。 クラスの友達と協力しながら、自分たちで生活を進める楽しさや充実感を味わう。 	
経験する内容	健康	<ul style="list-style-type: none"> 園生活の楽しかったことを思い出したり年少児と関わったりする中で、自分が大きくなったことを実感し、小学校への憧れと期待をもって生活する。【自】 健康で安全な生活に必要な習慣や行動の仕方が分かり、自分から進んでしようとする。【健 道】
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で時間を意識し、見通しをもって行動する。【健】 様々な活動に取り組む中で、自分の力を発揮し充実感を味わう。【自】 寒さに負けず、思い切り体を動かして集団遊びや運動遊びを楽しむ。【健 協】 園生活を振り返り大きくなったことを喜ぶとともに、周りの人に感謝の気持ちをもつ。【自 社】
	環境	<ul style="list-style-type: none"> 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分で考えて行動しようとする。【道 社】 クラスの中でみんなの役に立つ喜びを感じ、自分のできることを進んでやろうとする。【協 社】 グループやクラスの友達と共通の目的に向かって考えを出し合いながら主体的に遊びを進め、一緒にやり遂げた喜びを味わう。【自 協】
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> 友達のよさや頑張っていることに気付き、互いに認め合う。【協】 年下の子どもへの関わり方を自分なりに考えたり、自分の知っていることを教えたりする。【社 言】
	表現	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの出来事や文字、数、形、時間、仕組みなどに関心をもち、遊びや生活に取り入れる。【思 数】 冬の自然物に興味をもって触れ、考えたり試したりするとともに、冬から春への季節の変化に気付く。【思 自然】 集団の中で友達や先生の話に注意して聞き、思いや考えを場にふさわしい言葉で話そうとする。【社 言】 感じたこと、考えたことを言葉や動きで表現し、物語などからイメージを広げ演じて遊ぶ楽しさを味わう。【言 表】

<保育のポイント>

- ☆小学校との交流などを通して、入学への期待や意欲を高め、学校生活を楽しみにできるようにする。また、新しい環境への不安な気持ちを受け止め、励まし、生活や遊びに落ち着いて取り組めるようにする。
- 入学後の小学校で、文字や数をはじめ教科学習が始まることへの意欲や憧れをもてるように関わっていく。また、クラスのみんなと話し合う機会を大事にし、自分の経験や考えを伝えたり、友達の話に関心を寄せて聞いたりできる経験を重ね、言葉による伝え合いができるようにする。
- 雪や氷など、冬の身近な自然現象との出会いを逃さず捉えて遊びに取り入れるなど、楽しみながら知的好奇心が育まれるよう関わっていく。
- クラス共通の目的や願いに一人一人が共感し、みんなで協力して一つのことに向かって取り組む楽しさを経験できるような活動を取り入れる。

<家庭との連携>

- ・発表会や卒園式、修了式に向けての取組の過程を通信などで伝え家庭と共に子どもの成長を確認し、喜びが感じられるようにする。
- ・早寝、早起きなどの生活リズムを整えることや、通学路の交通ルールと一緒に確認することなど、入学への準備の重要性を知らせ、家庭でも意識できるように支える。

生活発表会の劇遊びで、オニの役をしようということになり、オニをつくり出した4人グループの子どもたち。段ボールにかいたオニが大きすぎて立たず、どうしようか考えていると、他のグループの友達も来て、「棒をつけたら?」「針金をつけたら?」「そんなのできないよ」「でもできるかもしれないよ」「針金なんて付けられない」「できるよ。針金もっておくからガムテープ貼って」など、アイデアを出し合ったり、思いをぶつけ合ったりしながら、オニができあがりました。それを使い、劇遊びでは、自信満々にオニを演じる姿がありました。

【健康】

【様々な活動に取り組む中で、自分の力を発揮し充実感を味わう】

今までの経験が基になり、「自分たちはいろいろなことができるようになった!」と自信をもって活動に取り組めるようになってきています。また、就学への期待も高まり、意欲的に生活するようになります。

【人間関係】

【グループやクラスの友達と共通の目的に向かって考えを出し合いながら主体的に遊びを進め、一緒にやり遂げた喜びを味わう】

“劇遊びに必要なオニをつくる”という共通の目的があり、そのためにどうしていいかと考えを出し合い、時にはぶつかりながらも自分たちで活動を進めています。

【環境】

【身の回りの出来事や文字、数、形、時間、仕組みなどに関心を持ち、遊びや生活に取り入れる】

節分の時にオニが来園したことをきっかけに、遊びにオニを取り入れた子どもたちです。自分たちとオニの背の高さを比べたりするなど経験したことを生かし、活動しています。



【言葉】

【集団の中で友達や先生の話に注意して聞き、思いや考えを、場にふさわしい言葉で話そうとする】

グループ活動の中では、自分の考えだけでなく友達の話も聞こうとします。クラスの中で、安心して自分を発揮できる雰囲気や、相手との心地よい関係性が大切になってきます。



【表現】

【感じたこと、考えたことを言葉や動きで表現し、物語などからイメージを広げ演じて遊ぶ楽しさを味わう】

お話のイメージを膨らませ演じたり、どうすればよいか考え表現しようとしたりする姿が見られました。友達に認められることで、より自信がもて、表現する喜びにつながりました。

【このコラムにおける保育のポイント】

- 入学に期待が膨らむとともに、遊びに対する思いが子ども同士でいっそう活発に行き交うようになります。これまでの経験を出し合いながら、主体的に遊びに向かう中で、友達と気持ちがしっかりつながっていくように援助していきたいものです。子どもの経験や力量に見合った材料や、活動のヒントを投げ掛けながら子どもと共に環境を整えていきましょう。
- いざこざが起こっても、解決を急がずに、子ども一人一人が気持ちに折り合いをつけながら、様々な解決の方法を模索していくきっかけをつくる援助が必要です。気持ちを支え、子どものもっている力を引き出す保育を心掛けたいところです。

